

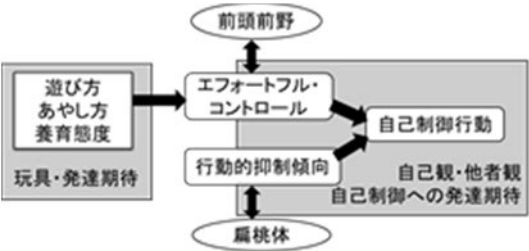
# 幼児期の対人場面での自己制御行動 ー発達初期の気質との関連ー

○ 水野里恵 (中京大学)

一木恒佑 # (中京大学大学院)

## 問題

われわれは、日本の子どもが就学前期に示すようになる対人場面での自己制御行動の発達について下記のようなモデル図を検討したいと考えている。



## 方法

**第 1 回質問紙調査:** 第一子 (5 ヶ月齢～17 ヶ月齢) 267 名に質問紙調査を実施した。質問紙は、子どもの気質測定項目と養育環境調査項目から構成されていた。2011 年 6 月実施。

**第 2 回質問紙調査:** ECBQ 日本語翻訳版から 7 尺度についての気質測定を実施した。有効回答は 127 名から得られた。2012 年 3 月実施。

**第 3 回質問紙調査:** 子どもの対人場面での自己制御行動と母親の発達期待・価値観・CBQ 日本語翻訳版から 7 尺度についての気質測定を実施した。回答は 87 名から得られた。2013 年 11 月実施。

## 結果

3 時点で全ての尺度に回答の得られている 82 名を対象に分析を行った。

### 自己制御行動質問紙の因子分析結果

対人場面での自己制御行動がどのように認識されているかを明らかにするため、全 20 項目に対して因子分析 (主因子法・プロマックス回転) を実施した。固有値の推移、因子の解釈可能性、累積寄与率を考慮して 2 因子を抽出した。第 1 因子は自分の欲求や意思を他者に伝えたりリーダーシップをとる行動に負荷を示しており「主張・自己実現」、第 2 因子は我慢したり機嫌をそこねず自己を抑制する行動に負荷を示す項目群を表すと考えられ「自己抑制」と命名した。それぞれの因子に負荷する項目の加算平均値を尺度得点として算出した。各尺度得点の  $\alpha$  係数は、対人場面自己主張得点 = .80, 対人場面自己抑制得点 = .72 となった。

### 自己制御行動 2 側面の性差・月齢差

各尺度得点の男女別・月齢別の平均値を表 2 に示

した。各尺度得点の平均値について、性\*月齢の 2 要因多変量分散分析を行った結果、性別の主効果が見られた。女兒の自己抑制得点が有意に高かった ( $F=7.19, p<.01$ )。

表 1 対人場面での自己制御行動: 因子分析結果

|     |                                      | 因子   |      |
|-----|--------------------------------------|------|------|
|     |                                      | 自己主張 | 自己抑制 |
| 10  | 遊びたい玩具を他児が使っているとき「貸して」とか「私にもさせて」と言う  | .82  | .00  |
| 17* | 遊びたい玩具があっても、他児が使っていたら「貸して」と言いだせない    | -.74 | .03  |
| 16  | 積極的に「あれをやろう」「これをやろう」と言って友だちをリードする    | .68  | -.14 |
| 6   | 他児にいやなことをされたら「いや」とか「やめて」と言う          | .66  | .13  |
| 20  | 他児がルール違反していると注意する                    | .64  | -.10 |
| 13* | 他児の前では恥ずかしがったり、ぐずぐずする                | -.42 | .11  |
| 2   | 遊びのやり方や遊びの役割などで、自分のしたいことははっきり言う      | .41  | .20  |
| 12* | 一度言い出した他人の言うことに耳を貸さない                | .09  | .67  |
| 8*  | 家、スーパーなどで駄々をこねる                      | .03  | .65  |
| 14* | お母さんに何かしなさいと言われても「いやだ」と言って我を押し通そうとする | .02  | .65  |
| 4*  | 相手に自分の思い通りにならないと機嫌が悪かったり怒ったりする       | .12  | .63  |
| 11  | 誰かに自分の使っている玩具などを貸してと言われたら貸してあげる      | .03  | -.45 |
| 15  | 欲しいものがすぐに手に入らなくても我慢する                | .13  | -.40 |
| 3*  | 1人でできることでもお母さんに頼る                    | -.18 | .39  |
| 19  | ブランコ、すべり台などは代わりばんこに使って遊ぶ             | .29  | -.39 |
| 18* | 欲しいものであれば、例え他児が使っているものでも無理矢理に取ろうとする  | .29  | .38  |
| 7*  | 困ったことがあるとメソメソしたり泣き出してしまふ             | -.08 | .37  |

\* 逆転項目

表 2 自己制御行動の 2 側面: 性別・月齢群別平均値 (SD)

|    | 月齢 | 人数 | 自己主張・実現的側面 |     | 自己抑制的側面 |     |
|----|----|----|------------|-----|---------|-----|
|    |    |    | 平均値        | SD  | 平均値     | SD  |
| 男児 | 低群 | 8  | 2.48       | .71 | 2.35    | .44 |
|    | 中群 | 15 | 2.58       | .70 | 2.67    | .37 |
|    | 高群 | 12 | 2.83       | .55 | 2.46    | .61 |
| 女児 | 低群 | 13 | 2.88       | .54 | 2.78    | .51 |
|    | 中群 | 24 | 2.76       | .65 | 2.75    | .39 |
|    | 高群 | 10 | 2.28       | .80 | 2.80    | .41 |

### 自己制御行動 2 側面と気質との相関

自己制御行動 2 側面と 3 時点での気質との相関を求めた (表 3)。

表 3 対人場面での自己制御行動 2 側面と気質各次元の相関係数・気質各次元間相関係数

|                 | 平均値 (SD)    | 自己抑制<br>主観的側面 | 自己抑制<br>行動的側面 | T1_Adapt | T1_EC | T2_EC  | T3_EC | T3_EC  |
|-----------------|-------------|---------------|---------------|----------|-------|--------|-------|--------|
| 自己抑制・主張的側面      | 2.69 (0.66) |               |               |          |       |        |       |        |
| 自己抑制・抑制的側面      | 2.67 (0.46) | -.056         |               |          |       |        |       |        |
| T1_Approach     | 3.16 (1.39) | -.174         | -.203         | .608**   | -.192 | .409** | -.008 | .272*  |
| T1_Adaptability | 2.80 (1.03) | -.097         | -.193         |          | -.199 | .296** | -.001 | .237*  |
| T1_EC           | 5.00 (0.67) | .187          | .315**        |          |       | .083   | .250* | -.167  |
| T2_EC           | 3.20 (0.46) | -.304**       | -.038         |          |       |        | .173  | .403** |
| T2_EC           | 4.31 (0.39) | .120          | .058          |          |       |        |       | -.177  |
| T3_EC           | 4.15 (0.89) | -.523**       | -.297**       |          |       |        |       | .288** |
| T3_EC           | 4.54 (0.48) | -.163         | .441**        |          |       |        |       | -.025  |

\*  $p<.05$

\*\*  $p<.01$

## 考察

発達初期に引っ込み思案の傾向を示す子どもほど主張面・抑制面ともに遅れる傾向にあること、エフォートフル・コントロールが高い子どもほど抑制面の発達が進む傾向にあると考えられた。

本研究は科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) : 課題番号 21330156)・科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) : 課題番号 26380909) による助成を受けた。